

「研究開発実行計画」で掲げる技術開発の目標			研究課題名	研究内容	研究期間	担当
「もうかる農林水産業」を実現する技術の開発	市場にひろがる「とくしまブランド」を育成する技術の開発	生産の増大を図る多収技術の開発	小松島市和田島地区のワカメ産地強化に向けた生産技術の開発	高水温化の影響等から生産量が減少している和田島地区の漁場環境に適した新たな優良品種を開発するとともに、品種を活かすための生産技術を開発する。	H25～27	環境増養殖
			とくしまの海海藻増産事業	天然わかめ、ひじき等の十分利用の進んでいない天然海藻資源については有効活用を促進することにより、漁業者の新たな収入源を創出する。	H25～27	環境増養殖
			スジアオノリ養殖の安定生産に向けた品種の開発	本県沿岸の河川の河口域から低塩分、高水温に対応することができるスジアオノリの品種を探索・選抜する。このことにより、本県のさまざまな気象変動に対応できる株を水産研究課で培養管理し、適宜養殖業者に母藻を提供することで生産量の安定を図る。	H27～29	環境増養殖
			アワビ・アオリイカの価値を高める加工・流通	低価格で取引されがちなアワビ・アオリイカのいわゆる「すそもの」の価値を高めるための加工・冷凍技術を開発する。	H25～27	海洋生産技術
			FRP製高揚力オッターボードと網漁具の開発・実証試験	播磨灘の小型底びき網漁船に適した、軽量で安価なFRP製HLTDと網漁具を開発する。同時に現場への普及を図ることで、漁獲量と漁業収入の向上を目指す。	H26～28	海洋生産技術
			増養殖技術研究	養殖漁業の振興を図るため、海藻類の養殖技術研究及び養殖漁場環境の調査を行う。	H12～	環境増養殖
	生産性を高める省力・低コスト生産技術の開発	資源管理に必要な情報	新漁業管理体制下での適切な操業支援、調査体制の整備を図るため、沿岸域における漁海況情報の収集・分析・提供を行うとともに、地域レベルでの情報の提供を行う。	H9～	海洋生産技術	
	食の安全性を高める総合的な病害虫管理技術の開発	病害対策研究	魚介類の感染症等による病害の原因究明、診断及び予防・治療法を確立する。	H12～	海洋生産技術	
	消費者の健康志向に対応した生産	漁場環境保全対策調査	養殖漁場における水質及び底質の推移を把握し、その結果を基に適正な漁場利用を促進する。	S54～	環境増養殖	
		赤潮対策技術開発試験	播磨灘における赤潮被害を防止するため、近隣県と共同で有害プランクトンの出現動向等を調査する。	H11～	環境増養殖	
	地球温暖化等から農林水産業を守る技術の開発	漁場環境監視等強化対策事業	赤潮、貝毒の被害防止対策を実施する。	S54～	環境増養殖	
		磯焼け対策緊急整備	阿南地区に造成された藻場を対象に、食害対策や浮泥対策、種苗供給等の必要な措置を施した後、モニタリングを実施する。	H19～30	環境増養殖	
		漁場生産力向上のための漁場改善実証試験	瀬戸内海沿岸域では、冬季の水温上昇と栄養塩減少に伴い、ワカメ、ノリの色落ちの発生頻度が高まっている。瀬戸内海東部海域の関係機関が共同で色落ちの原因解明と実証試験を通じて適正な栄養塩供給手法の開発する。	H25～29	環境増養殖	

「研究開発実行計画」で掲げる技術開発の目標	研究課題名	研究内容	研究期間	担当
研究開発を支える基礎調査、遺伝資源の保存と優良種苗等の供給	新技術の開発や研究を支える継続的基礎調査	漁業資源対策研究	小型底びき網、延縄、パッチ網等の機船漁業で漁獲される浮魚と底魚について、主要漁協の漁獲統計調査や漁獲実態調査により、漁業資源の動態をモニタリングする。	H13～ 海洋生産技術
		河川生産力有効利用調査研究	吉野川におけるアユの資源量調査の実施により、河川資源の有効利用に資する。	H2～ 環境増養殖
		資源評価調査	ABC(生物学的許容漁獲量)の決定と対象魚類の資源状態の把握を目的として、県内主要漁協における漁獲量やそのサイズを調査する。	H10～ 海洋生産技術
		小型底びき網及び船びき網等の主要漁業種に関する調査研究	小型機船底びき網漁業を対象にした資源回復計画の実効性を把握するため、主要魚種の資源状況調査を行うとともに、自主的な資源管理の取り組みを支援する。	H17～ 海洋生産技術
遺伝資源の保存と優良種苗・種畜等の供給	カワバタモロコ種苗生産試験	絶滅危惧種であるコイ科の淡水魚・カワバタモロコの保護及び増殖を目的とした種苗生産を実施する。	H19～28	環境増養殖